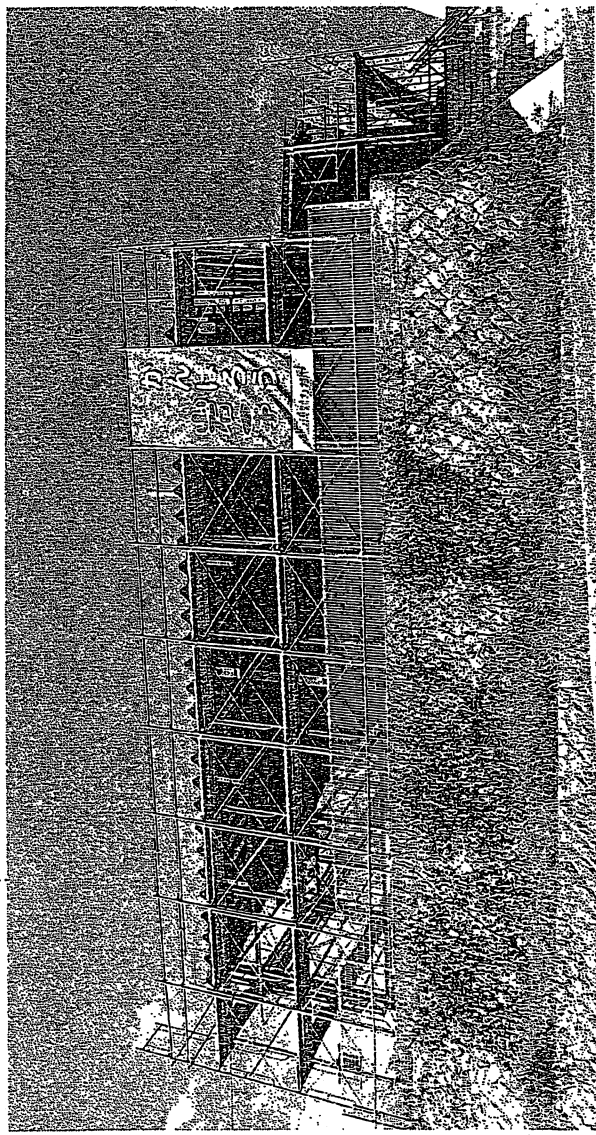


無料浴場 年内にも完成

山田 仮設団地巡回バスも

山田町災害復興支援隊（岡田栄啓部隊長）は、同町八幡町の御蔵山に無料仮設浴場の建設を進めている。交通弱者のために町内の仮設団地を巡回するバスの運行も予定。年内完成を目指しており、住民は「温かい風呂に足を伸ばして入りたい」と期待を寄せている。

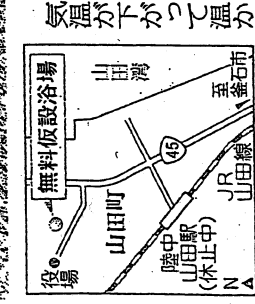


寒さ募る季節 温かな贈り物

年内の完成を目指して御蔵山に建設中の無料仮設浴場＝山田町

同施設は、鉄骨平屋建てで、床面積82平方メートル。浴場は約10平方メートルの浴槽を備え、洗い場を男女それぞれ設置する。施設の下に掘った井戸から水をくみ上げ、20タンクに貯水。ガス発電を利用して湯を沸かす。利用期間は当面2年間で、午前10時から午後10時まで無休で営業する予定。

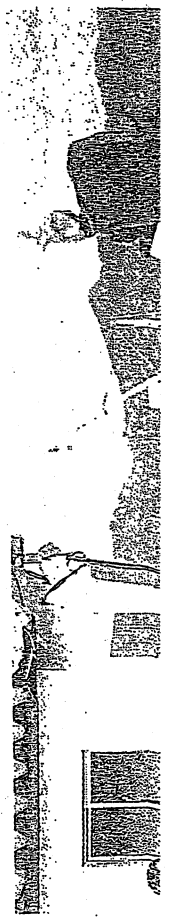
施設の建設は、町が同様に委託する緊急雇用事業の一環。「大きい風呂に入りたい」という被災者の要望や、町中心部の銭湯が被災したことから企画した。



い湯に漬かりたい季節を迎え、待望の無料浴場に被災者の期待も膨らむ。同町船越の仮設住宅で暮らす山崎善智子さん(70)は「仮設の風呂は狭すぎて入る気がしない。無料浴場に入るのが楽しみ。孫を連れて毎週通いたい」と声を弾ませる。

町復興支援隊も担う岡田部隊長は「浴場は万一停電しても自家発電ができ、避難施設にもなる完成したら、ぜひ多くの人に来てほしい。これからも被災者の声を聞き、自分たちのできることをやっていく」と次の支援を誓う。

エネルギー節 元気を呼ぶ



善住 住

が応援に訪れた。同研究会によると、11月は原木伐採に適した時季で、この期間を逃すと収穫が1年遅れるという。斉藤代表は「被災者の収入源を確

はた場復旧 願ひ込め

NPO法人のニイタク原木伐採

盛岡市のNPO法人（斉藤文男代表、正会）の西日、宮古市重茂の

（もやい）は、とまつなを各とや、寄り合らに仕事をし、落内の共同作業の共同分配など。沿岸地方ではつなかりを示す（い）の意味でをことも多い。

失し、家族4駐宅暮らし。窓には例年、1ことが多く、来への不安も大に。

し、白の口開し、湯当たりの水料30、40きだった船は60き近くた。

の状態は震災前らな。自分でりながら漁をすむしる集中でき、筆に漁を終えきた表情を見揮さん。かこいのアノヒを前に強風の中、これるもの。や名人だ」と漁師、口々に三浦さをたたえた。

からの賛辞と「これしさをめながら三浦さん1回の漁で書んられない。またれから」と次のけ気を引き締め

は4丁目 善智子さん(70) たちの心のけがらだ。震災 野は子どもた